

メトミノストロビン15%粒剤（オリブライト1キロ粒剤）の 水面施用による葉いもち防除

農業センター

1 取り上げた理由

現在、葉いもち防除の主体であるオリゼメート粒剤の水面施用は、防除効果は高いものの散布適期が葉いもち初発の7～10日前（6月15～20日頃）と短い。そのため、兼業農家等において、適期に散布できず、防除効果の低下を招いている場合がある。そこで、予防と治療効果を有する水面施用剤について、散布適期幅と効果の持続性について検討したところ、成果が得られたので参考資料とする。

2 参考資料

- オリブライト1キロ粒剤を10a当たり1kg、葉いもちの初発10日前から初発時まで水面施用すると、慣行防除体系であるオリゼメート粒剤、コラトップ粒剤による水面施用とほぼ同等の葉いもち防除効果が認められる。散布適期幅は10日間と長い。
- オリゼメート粒剤の水面施用に比べ、下位葉でのいもち病発生はやや多いが、効果の持続期間は長く、上位葉のいもち病発生まで抑制する。

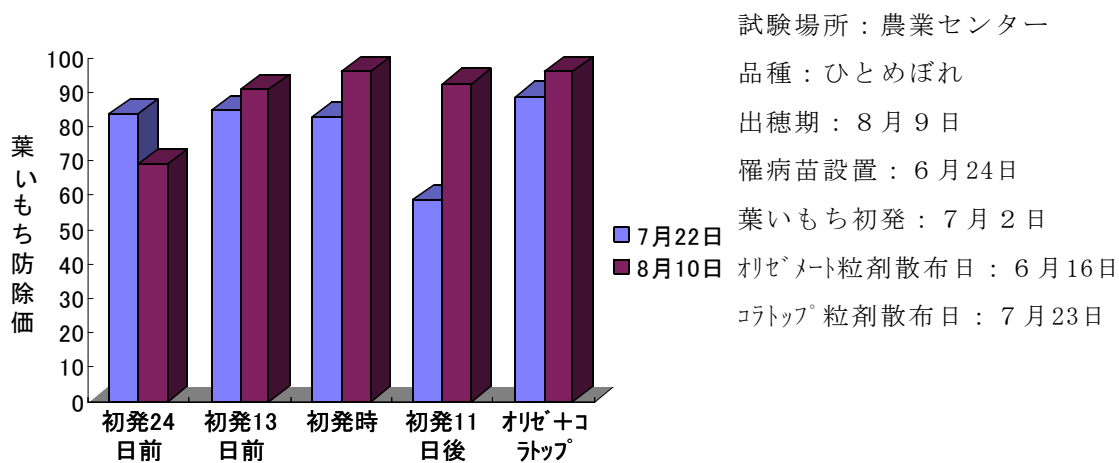


図 散布時期とオリブライト1キロ粒剤の葉いもち防除効果

3 利活用の留意点

- 本剤の使用により、稲の葉に褐点を生じる場合があるので使用量を厳守する。また、高温により褐点が生じやすいので、急激な温度上昇が予想される条件下では使用しない。
- 本剤の特性を生かした防除体系については検討中であり、当面穂いもち防除は従来どおりとする。

(問い合わせ先：宮城県農業センター作物保護部 電話022-383-8125)

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題及び研究期間 病虫害発生要因の究明と防除法の検討 平成9年～10年

2) 参考データ

a 特性

ア) 有効成分：メトミノストロビン15.0%

イ) 性状：粒状

ウ) 毒性：人畜毒性 普通物，魚毒性 A類

エ) 安全使用基準

作物名	適用 病虫害名	10アール当 たり使用量	使用時期	本剤及びメトミノスト ロビンを含む総使用回数	使用 方法
稲	いもち病	1kg	葉いもち初発10日前～10日 後（収穫の60日前まで）	1回	湛水 散布

b 試験データ

表-1 オリブライト1キロ粒剤の葉いもちに対する防除効果（H9 気仙沼市）

調査項目 処理時期	発病株率(%)				上位2葉 病斑数	防除価
	7月4日	7月14日	7月25日	8月14日		
オリブライト1キロ粒剤	0.2	2.5	5.0	0	100	
オリゼート粒剤+コラトップ粒剤	0	0.5	41.0	0.19	92.7	
無処理	0.1	4.0	81.0	2.59	-	

・品種 ひとめぼれ・田植5/21・出穂期8/12・葉いもち初発7/4（自然感染）・オリゼート粒剤散布6/16（初発18日前散布）・コラトップ粒剤5散布8/5（出穂7日前散布）・オリブライト1キロ粒剤散布7/4（初発時散布）

表-2 オリブライト1キロ粒剤の葉いもちに対する防除効果（H10 場内試験）

調査項目 処理時期	7月22日調査		8月10日調査		薬害
	株当たり上位 3葉病斑数	防除 価	株当たり上位 2葉病斑数	防除 価	
出穂65日前（初発24日前）	0.21	83.9	0.68	69.0	± *±：褐点は
54日前（初発13日前）	0.20	84.7	0.20	90.9	± 生ずるが生
41日前（初発時）	0.22	82.9	0.09	95.9	± 育への影響
30日前（初発11日後）	0.54	58.9	0.16	92.5	± は見られな
18日前（初発23日後）	1.33	-1.5	0.40	80.7	± い
(対)プロベナゾール+ピロキロン	0.15	88.7	0.09	96.0	
無処理	1.31	-	2.19	-	

・品種 ひとめぼれ・田植5/11・出穂期8/9・葉いもち初発6/29（接種条件）・オリゼート粒剤散布：6/16（初発13日前散布）・コラトップ粒剤5散布：7/23（出穂17日前）

（予想価格：2,500円/10a程度）